



EKMATTRA

presents

A SHUBHASHISH ROY FILM

アリ地獄 のような街

THE WHIRLPOOL

大都市ダッカの闇。

子どもがアリ地獄に飲み込まれていく
現実の姿を描いた、リアルストーリー。

監督：シュボシシュ・ロイ 制作：エクマッタ
2009年 / バングラデシュ / カラー / 82分
配給・宣伝：ユナイテッドピープル
特別協力：エイチ・アイ・エス
協賛：デジカメプリントのdpMAX

映画監督のシュボシシュ・ロイは、バングラデシュでストリートチルドレン支援活動を行うNGO、エクマッタの代表です。この映画は、ダッカで抑圧され、搾取されている子ども達の現状を知ってもらうために制作しました。収益はストリートチルドレンのための自立センター設立のために活かされます。

特別協力:



協賛:



オフィシャルサイト: arijigoku.net

上映主催者募集中!

ジャック&ベティは 11/7~20。配給・作品のお問い合わせ:ユナイテッドピープル株式会社 関根

TEL:045-212-5559 Mail: films@unitedpeople.jp <http://www.arijigoku.net>

生き延びるために、大都市ダッカに来た少年、ラジュ・・・



あらすじ

農村での生活を捨て、生き延びるための僅かなお金を握りしめ、大都会ダッカへ足を踏み入れた少年ラジュ。そこでラジュはダッカの路上で暮らすストリートチルドレンなどと知り合っていく、彼らの元締めであるイアシンという男のもとに連れて行かれる。イアシンはダッカの暗闇を象徴するような男であり、子ども達を使って様々な違法な商売に関与している。ラジュも自分がしている悪事に気づかないまま、イアシンの手先になっていってしまう。一方、路上に捨てられた少女ククもイアシンの餌食となり、ダッカの闇の生活に落ちていってしまう。

この物語は、アリ地獄のように引き寄せられ、逃れることのできない、ダッカに存在する闇を描いた映画である。

※ラジュの本名は、パルベス。もともとは本当のストリートチルドレンでした。今は14歳です(2009年8月時点)。エクマッタのシェルターホームが始まった時からエクマッタにいて、それから4年半の間、シェルターホームで生活していました。その後事情がありエクマッタの子どもとして、パートナー団体のセンターで生活しています。昼間は路上で新聞を販売して、夜はシェルターホームで生活しています。彼は、今後エクマッタのスタッフとして働いていく予定です。

映画制作について

この映画では約250人の俳優達が関わっています。また、映画製作のためのスタッフは、監督を含む撮影チーム10人、美術・衣装・小道具・メイクアップなど15人、制作チーム20人、制作責任者4人、また、編集チームなどです。

脚本が仕上がったのは2004年でしたが、映画制作のためのスポンサー探しに時間がかかりました。2007年10月、私達はスポンサーとしてDutch-Bangla Bank Ltd. と Moments of Joy の協力を得て、映画の撮影に取り掛かりました。そして、2009年3月、映画を完成させることができました。

この映画を制作した理由

私たちエクマッタはストリートチルドレンへの支援活動を通じ、路上生活をしている子ども達が常に危険にさらされている事実を知り、そして一般社会に生きる人々にこの事実を知らせることこそが重要なことであると痛感しました。そこで選んだのが「映画」という手段です。「映画」は単なる娯楽ではなく、あらゆる階層の人々へ、現実の社会に繋がる強いメッセージを伝えることができる媒体であると思うからです。

この映画制作にはふたつの目的があります。ひとつは、一般社会が問題を認知し、そして自分自身の行動を改めるきっかけとなること。そしてふたつ目が、「エクマツラアカデミー」の設立資金を集めるため、というものです。

「エクマツラアカデミー」は、これまでに行ってきた青空教室、シェルターホームに続いての第三のステップとして設立を計画している、ストリートチルドレンの自立支援センターです。そのプロセスにはなるべく多くの人々の参加と賛同を得たいという願いがあります(2008年9月、建設予定地を購入し、現在建設作業中)。この映画の公開から得られる収益はこのアカデミーの設立資金に充てられます。それはつまり、観客の皆さんひとりひとりが、子どもたちがアリ地獄を脱却するというプロセスをサポートすることなのです。

現実を知る、未来が動く

この映画を通して伝えたいメッセージ

私たちは、途上国における「開発」というものを考えるときに、また途上国の様々な問題の解決を考えるときに、まずその被害者をいかに変えていくか、彼らの状況をいかに改善していくかということばかりを考える傾向があります。ですが問題はそれほど単純なものではなく、本当に多くの要素と要因が絡み合ったものです。それは、私たちひとりひとりも知らず知らずのうちにその加害者となりうることを示しています。今、求められているのは、まずはこうした問題の存在を知ること、そして自らを変えていく、変革していくことではないかと思うのです。

この映画が、一人でも多くの人、そうした「きっかけ」になることを願っています。

シュボシシュ・ロイ監督メッセージ



映画、「アリ地獄のような街」は単なる映画ではありません。路上生活者の現実の生活、また、彼らが直面している危険などを描いています。この映画はフィクションですが、私たちは現実社会を忠実に描くように努力しました。しかし、映画を作るための道のりは簡単なものではなく、たくさんの困難や、批判、人々の冷淡な態度にも直面してきました。でも、私たちはくじけませんでした。私たちは、どんなトンネルにも出口があって、社会は変えることができる、と信じている人々に、メッセージ

を伝えたかったのです。「アリ地獄のような街」は、そのような人々に考えるきっかけを与え、見落としがちな問題を想起させることになると思います。私たちエクマツラは、私たちの使命が成功し、この映画が多くの人々を啓蒙して、より良い社会を築くための一歩に繋がると信じています。

NGO、エクマットラとは



エクマットラとは、ベンガル語で「みんなが共有できる 1 本の線」という意味。

経済的、社会的格差がとても大きい国、バングラデシュ。その格差のあいだに架け橋をかけたいとの思いからエク(ひとつの)マットラ(皆が共有する線)と名づけました。エクマットラは、青空教室やシェルターホームの運営などストリートチルドレンに対する支援と、映画制作等のメディアを通じた啓発活動、の2つを軸に活動を行うバングラデシュの民間活動団体です。2009年より映画「アリ地獄のような街」の上映キャンペーンを国内外で行い、2010年にストリートチルドレンの自立支援センター「エクマットラアカデミー」設立を目指しています。

エクマットラアカデミーとは

シェルターホームで集団生活に慣れ、そのルールを身につけた子ども達が実際に自立して生活して行くために必要な技術を身につけ社会復帰していくためのセンター、それが「エクマットラアカデミー」です。

ここでは、学校、ホステル、技術訓練&文化教育センター、医療施設などを併設し、高等の学校教育とともに、英会話、コンピューター、お菓子作り、伝統的刺繍、縫製、ロウ細工、サービスなどの職業訓練を中心に行っていきます。また、センター内に酪農・養鶏・漁業プロジェクトを中心に農地を整備し、その収益でセンターを運営していける体制をつくります。そして子ども達がこのセンターで技術を身につけ、卒業するときには身につけた技術を生かした就職の機会まで提供できるよう、エクマットラとして収益事業を行っていく予定です。また、事業から生まれてくる収益は、新しく入ってくる子ども達の技術訓練の経費に充てられます。こうして、ストリートチルドレンを立派な人材として、人材と資金のサイクルをバングラデシュ国内に構築することを、エクマットラはこの活動を通じて目指しているのです。

*2008年9月に、ダッカから北に170km離れたマイメイン県ハルアガットに3.5エーカー(東京ドームのグラウンド部分に相当)の土地を購入し、現在はいちごや枝豆などの栽培やヤギや鶏の飼育を行っております。2009年末から建設を開始し、2010年の完成に向けて準備を進めています。

エクマツラ共同創設者、渡辺大樹メッセージ

日本での上映にあたり、日本人はバングラデシュの現状を知らなかったり、これを観てこれが全てなのか、とってしまうと思うんですが、社会には色んな視点があって、それを一面だけで切り取るのはメディアの怖いところで、それだけでその国のイメージを抱いてしまうのはしてほしくないことです。この映画もある一面をある一面から描いた作品なのでいろんな所から他に沢山ある面を知り、総合的にその国やその国が抱える問題などを知っていく必要があると思っています。そういった意味で、私たちの映画を通じて、こういった問題もあるんだ、ということを知ってもらいたいし、それを知った上で、どんな出口があるのか、どんな解決策があるのか、というところを本気で考えて、本気で取り組んでほしいな、と期待しています。

それからこういった映画を見て、動いた気持ち、衝撃を何かに変えた時に、それはバングラデシュやエクマツラの活動に変えるという必要は全くなくて、それぞれの舞台、それぞれの立場の中で、日本国内を変えていってもいいし、他の国で変えていってもいいと思うし、それは人それぞれだと思うので、映画を見て何か感じたら、それを何かの行動に変えていくことが重要なんじゃないかと思っています。そういった一人一人の活動が少しずつ繋がって行って、大きなムーブメントを起こすことができたらおもしろいと思います。そして最終的にそれが途上国の人達のためになっていくんじゃないかと思うので、これを一つのきっかけにしてもらいたいです。

そういった意味で、日本で上映できることをすごく嬉しく思いますし、なるべく多くの人達に観てもらいたいと思っています。

渡辺大樹(わたなべひろき)プロフィール:



1980年生まれ、横浜市出身。金沢大学文学部卒。

大学時代はヨット部に所属。タイ・プーケットで行われたヨットの国際大会時にスラムの子どもを見て衝撃を受ける。帰国後1年間バイトで貯めたお金を持ち、世界最貧国の1つバングラデシュへ。2004年にエクマツラを共同創設。バングラデシュの問題はバングラデシュ人の手により解決するべきと考え、現在は顧問として活動を指揮し、エクマツラアカデミー設立に向けて奔走中。

バングラデシュについて

バングラデシュは、インドとミャンマーに挟まれた場所に位置する国で、北海道の約2倍の土地に、日本の人口より多い1億6千人を超える人々が住んでいます。公用語はベンガル語で、大多数の人々はイスラム教徒ですが、インド西ベンガル州からバングラデシュはベンガル地方と呼ばれ、詩人ロビンドラナート・タゴール、映画監督サタジット・レイを輩出するなど、文化的に優れた地域でもあります。また、ベンガルタイガーの生息するシュンドルボンを始めバゲルハットのイスラム遺跡などが、ユネスコの世界遺産に指定されており、隠れた観光地として人気があります。



しかし、一般的にバングラデシュというと、「アジアの最貧国」「洪水が毎年起こる国」というネガティブな印象を受けがちではないでしょうか。その印象は、正しくもありますが、その他の側面も、もちろんバングラデシュは持っています。

首都ダッカでは、年々、綺麗なショッピングモールが増え、街には綺麗な日本車が走り、スーツ姿のビジネスマンが携帯電話を片手に闊歩する姿が見られます。また、国土の大部分を占める農村部では、美しい田んぼが広がり、子どもたちが走り回っていて、人々のとびきりの笑顔に出会うことができます。

また、近年のバングラデシュは、繊維加工業が盛んです。世界各国から、中国、ベトナムに続く繊維加工産業国として注目を浴びており、日本の大手企業の生産部門が進出するなど、日系企業の進出も伸びてきています。日本で手に取ることのできる Made in Bangladesh の服は、今後も増えていくことでしょう。

ところが、その発展の裏側で、貧困層や路上生活者が数多く存在するのも、また事実です。バングラデシュへ立ち寄ったことのある人なら、「バクシーシ(お恵みを)」と路上で声を掛けられた経験があるかもしれません。綺麗な民族衣装のサリーを着たお金持ちの女性が車に乗り込んでいる傍で、乳飲み子を抱えた物乞いの女性が路上に座り込んでいる、という光景が当たり前のように見られます。

経済発展の裏に気が遠くなるような格差を抱えつつも、人々の笑顔と優しさがあふれるバングラデシュ。この複雑な国は、今後どこへ向かうのでしょうか。

映画概要

【作品名】アリ地獄のような街(バングラデシュでの題名:Je Shohor Chorabali)

【HP】<http://www.arijigoku.net/>

【制作年】2009 年

【制作国】バングラデシュ

【時間】79分

【監督】シュボシシュ・ロイ(エクマットラ代表)

【制作】エクマットラ <http://www.ekmattra.org/>

【配給・宣伝】ユナイテッドピープル <http://www.unitedpeople.jp/>

【特別協力】エイチ・アイ・エス <http://www.his-j.com/>

【協賛】デジカメプリントの dpMAX <http://dpmax.jp/>

監督:シュボシシュ・ロイ(SHUBHASHISH ROY) プロフィール

エクマットラ 代表、「アリ地獄のような街」監督

幼少時から演劇を行ってきており、16 歳の時に国民映画「DIPUNumber2」(邦題:転校生ディプー)に出演し(助演)、当年のバングラデシュ国民助演賞を受賞。1998 年の福岡映画祭に選ばれ、日本に招待される。ダッカ大学在学中に、友人とともにエクマットラ:」を設立。エクマットラ活動の一環としてメディア活動を指揮し、多数のドキュメンタリー映像を制作。2009 年には初の映画「JeShohor Charabali(邦題:アリ地獄のような街)」を完成。4 月にバングラデシュで初上映会を行った。

上映主催者募集

「アリ地獄のような街」は自主上映会を中心に展開しています。

上映会主催料金

50 人まで 40,000 円(税別)

・・・チラシ(B4×4 面)100 枚、ポスター(A2)3 枚、チケット 50 枚以内

100 人まで 60,000 円(税別)

・・・チラシ(B4×4 面)200 枚、ポスター(A2)5 枚、チケット 100 枚以内

101 人以上 80,000 円(税別)・・・チラシ(B4×4 面)300 枚、ポスター(A2)10 枚、チケット 200 枚以内

上記の通り固定費となります。1 日当たりの料金で、1 日の上映は 2 回までとなります。

チケット、チラシ、ポスターの追加についてはご相談ください。

※こちらの上映主催料金の半額が、「エクマツラアカデミー」の設立資金となります。

※大学等教育機関が主催する場合は、料金のご相談に応じます。

映画上映方法

DVD レンタルとなりますので、DVD プレーヤーかパソコンでの上映となります。

※パソコンですと、途中でソフトウェアの干渉で止まることもあるため、DVD プレーヤーでの上映をおすすめします。

上映時間等

DVD は映画本編以外にもバン格拉デシュの紹介、エクマツラの紹介映像もあります。以下をご参考に上映時間をご決定下さい。

1. 映画本編 79 分
2. 特別編 8 分
3. エクマツラ共同創設者 渡辺大樹メッセージ 15 分

※予告編や、詳しい情報は、オフィシャル HP まで。 <http://www.arijigoku.net>